笠　利休形、竹の皮熊野笠、檜網代組用てもよし、

草履　むかしはひとへなりしを、利休、竹の皮の裏付をこのむ、是雪踏の始りなり、裏あるをすべて雪踏と唱ルよし、雪をゑのぐ爲也、

下駄　利休形、杉に竹の皮のハナヲ也、

杖　利休形、白竹の上を竹の皮にて包み、紺苧にて卷く、

〔南方錄拾遺〕露地の出入は、客も亭主もげたをはく事、紹鷗の定め也、草木の露ふかき所往來する故如是、互にくつの音、不功者功者をきゝゑるといふに、かしかましくなきやうに、又さしあしするやうにもなく、をだやかに無心なるが功者とゑるべし、得心の人ならで批判ゑがたし、宗易好みにて、此比草履のうらにかわをあて、せきだとて當津堺○今市町にてつくらせ、露地に用られ候、此事を聞申たれば、易の云、げたはく事、今更あしきにはあらず候へども、鷗の茶にも、易ともに三人ならで、げたを踏得たるものなしと鷗もいわれし也、今京堺奈良にかけて、數十人のすき者あれども、げたをはく功者は、僧ともに五人ならではなし、これいつもゆびを折事也、されば得道ゑたる故は云に不及事也、得心なき衆は、先々せきだをはきて玉はれかし、亭坊別而かしましさの物ずきなりと笑はれし、

〔長闇堂記〕昔はわら草履にて有しを、利休より雪踏となれり、足袋も昔はかざりしなり、

〔茶傳集茶人系譜〕千宗易

流派

- 千道安
  - 桑山左近
    - 片桐石見守　石州流ノ祖
- 千宗淳
  - 千宗旦
    - 千宗佐　江岑ト號、旦ノ二子也、紀州ニ仕、今ニ連綿タリ、不審庵、千家表ト云、
    - 千宗室　仙叟ト號、旦ノ三子也、加州ニ仕、今ニ連綿タリ、今日庵、千家裏ト云、